

全国と比較した関西農業の特徴(ビジョンの補足)

京都府立大学 宮崎 猛

①関西の中心軸に大都市圏が連なり、農産物の大消費地と生産地が近く、多様な農産物を生産(大半の府県は、大幅な農産物の純移入県)。

②平地農業地域(全体の10%弱)が少なく、都市的地域(45%)と中山間農業地域(45%)にほぼ二分される。(都市と中山間農山村とが近接し、都市農村交流が盛ん→組織型交流の先進地)。

③農業構造改革の方向性(規模拡大による低コスト化 vs. 高付加価値化・ブランド化)

大規模農業法人(個人)や集落営農、参入企業の大規模経営は両方向を同時に志向。関西ではもともと経営規模が零細ゆえに、集落営農や個人農家でも集約経営による高付加価値化・ブランド化志向が強い→関西で一般的な方向は、環境保全型農業・6次産業化・都市農村交流の三点セットを同時に推進する農産物の高付加価値化・ブランド化

④政策(農業・農村)対象としての集落~旧村

(1)末端の農村インフラの維持管理主体としての集落・農家組合。

(2)多面的機能への直接支払交付金(中山間地域直接支払、農地・水・環境保全対策)も多くは集落を単位に支給。

(3)人・農地プラン(担い手育成、規模拡大のための計画づくり)も集落~旧村の範囲で策定。

(4)農村政策(6次産業化、都市農村交流など)のための村づくり活動も集落~旧村の範囲で推進。

(5)大規模経営(土地利用型)の展開方向でも、近畿は集落営農を重視。

⑤府県・市町村独自の政策内容

(1)都市農業分野

(2)環境保全型農業分野

(3)伝統野菜ブランド化分野

(4)中山間地域対策分野

(5)都市農村交流分野

(6)農村コミュニティビジネス分野

以上の特徴は、全国の画一的な国の農業政策とは違う関西広域エリアの独自政策の重要性を示唆している。